

仮称・生駒市竹林公園整備予定地内
発掘調査概要
—— 生駒市高山町 ——

1986・3

生駒市教育委員会

例　　言

1. 本書は、生駒市が昭和61年度に仮称・竹林公園を新たに整備することとなり、生駒市教育委員会が、高山町3573番地ほかの事前発掘調査を行った概要報告書である。
2. 本調査は、昭和60年12月18日に着手し、昭和61年1月11日まで発掘調査を実施し終了した。
3. 発掘調査は、生駒市郷土資料館学芸員・明珍健二を担当者とし、調査補助員として南孝雄、福田正広、村井毅史が当たった。出土遺物の整理・実測などについては明珍健二が当たった。
4. 本書の執筆は明珍健二が行った。
5. 発掘調査の進行、報告書の作成などについて、花園大学・伊達宗泰、奈良女子大学・村田修三、奈良県教育委員会・楠元哲夫、今尾文昭、四條畷市教育委員会・野島稔、宗教法人法楽寺・嶋司隆光、花園大学の学生諸氏から種々の御教示を受けた。明記して感謝の意を表したい。
6. 発掘調査の進行については、生駒市農林商工課、高山町庄田自治会長・逢坂善信、法楽寺住職・嶋司隆光諸氏から御協力を受けた。記して厚く御礼申し上げたい。また調査作業については、東急建設株式会社の全面的な協力を得た。

本文目次

例　　言

Iはじめに.....	3
1. 調査の契機と経過	
2. 位置と環境	
II調査の概要.....	3
1. 調査の方法	
2. 各トレンチについて	
IIIまとめ.....	6

図版目次

第1図	調査地区位置図
第2図	トレンチ設定位置図
第3図	第1トレンチ平面図
第4図	各トレンチ断面実測図
第5図	各トレンチ断面実測図
第6図	各トレンチ断面実測図
写真1.	調査区遠景
" 2.	第1トレンチ(東から)
" 3.	第1トレンチ(西から)
" 4.	第2トレンチ
" 5.	第3トレンチ
" 6.	第4トレンチ
" 7.	第5トレンチ
" 8.	第6トレンチ
" 9.	第7トレンチ
" 10.	第8トレンチ
" 11.	第9トレンチ
" 12.	出土遺物・陶器Ⅰ
" 13.	出土遺物・陶器Ⅱ
" 14.	出土遺物・瓦Ⅰ
" 15.	出土遺物・瓦Ⅱ

I はじめに

1. 調査の契機と経過

生駒市は、昭和61年度に高山町地内に多目的公園、仮称・竹林公園を新たに整備することになり、昭和59年度に遺跡有無確認調査が実施された。その結果、整備予定地内に城館等が存在するとの奈良県教育委員会の回答に基き、生駒市教育委員会では、昭和60年度に整備にかかる事前発掘調査を実施することになった。

遺跡有無確認調査の結果は、本調査区から北東へ約800mの地点にある高山城址の関連から、高山城の主郭もしくは付属施設が想定された。このため、市教委では、30,000m²におよぶ本調査区の中で、中世～近世にかかる城館の立地条件に合わせて、9本のトレンチを設定し約300m²の調査面積の掘り下げを実施した。調査期間は昭和60年12月18日から翌年1月11日までの計15日間である。

この発掘調査の目的は、中世城館（鷹山城）の有無確認、鷹山城主の菩提寺との伝承のある円乗寺跡の確認、また他の遺跡が存在することも想定している。

2. 位置と環境

本調査地区は、生駒市高山町大字小森畑に所在し、京阪奈丘陵の西南端部にあり、富雄川上流左岸に位置している。周辺には、一乘院方衆徒で応仁の乱から戦国時代初期にかけて活躍したとされる鷹山氏の高山城址、また奈良時代後期の須恵器窯として著名なイモ山窯跡群（6基）や古墳状隆起2基が確認されている。昭和59年には上町字山田から須恵器の散布地が発見され、隣接地での宅地開発の際、事前調査が実施されたが、他の遺跡の発見には至らなかった。北田原町南佐越には、北田原城があり、四條畷市田原地区の田原城址や高山城址との関係が気になるところである。

II 調査の概要

1. 調査の方法

本調査は、3haにおよぶ広範囲な地区を対象とするため、試掘溝を設け、基本順序をおさえながら遺跡、遺構の検出に努めた。特に調査区内の丘陵上の2つのピークとそれをつなぐ尾根上の平場に重点を置きながら、人力による掘り下げを行った。

2. 各トレンチについて

第1トレンチ

第1トレンチは、鷹（高）山氏の菩提寺であったと伝承されている扇円乗寺跡の遺構を確認するため、東西方向に長さ12m、幅3～5mでトレンチを設定した。T.P. 173.07mを計るこの平場は、山の西側斜面に位置する鷹山氏の墓地と推定される墓域と隣接する東側に位置し、このトレンチの北側斜面をのぼった地点に第2トレンチが、その東側の平場に第3トレンチが位置する。

調査前にこのトレンチは、竹立になっており、竹を伐採した時点で烟のうねが見られた。また北側斜面には石組み井戸(SE-01)があり、井戸から東へ向けて、土砂崩れを防ぐために用いたと思われる石段や瓦が敷かれていた。井戸の石組みや石段に使用された石材が丘陵の土砂から採取されないことから、これら石材と円乗寺との関連から、この平場に円乗寺が建てられていた可能性が考えられた。

第1トレンチの層序は、15~20cmの腐植土の下に耕上(1層)があり、その下に烟の床土と思われる赤褐色砂(礫まじり)の砂質土層が入っている。4層・暗灰褐色土層面で土塗(SK-01・02)2基と溝(SD-01~3層)1基を検出した。4層面では、トレンチ中央のSD-01をはさんで西側に赤褐色土層群(10層以下)があり、溝をはさんで土色に著しい差があることがわかった。遺構を検出した時点ではSE-01との関連を調べるために、井戸へ向けて北へ幅2mでトレンチを拡長し、さらに東側へ向けてトレンチを拡幅した。その結果、拡長したトレンチから130×80cmの方形土塗一基(SK-03)と拡幅トレンチから東の壁に切られる形で七塙一基(SK-04)を検出した。また井戸内部から瓦片2点、五輪塔の水輪2点、石材数点が出土した。井戸の掘られた時期は出土遺物と4層面から井戸の掘り方を検出したことから、そう古くはない。

溝の西側、赤褐色土層群でも土塗3基(SK-05、06、07)と溝1本(SD-03)を検出した。4層下5層からは、長円形のピット4基と径30cm程のピット一基を検出した。

4層面の遺構は、SD-01を境に東側にSK-01、02、04を検出した。SK-01は径1.25mの円形土塗で深さ40cmほどで出土遺物は瓦片がコンテナ1箱、陶器数点である。SK-02は、径2m強の円形土塗で深さ1m強の深掘りでトレンチの東南隅に切られる形で検出したため全体はわからない。出土遺物はなく不明である。SK-04は径1.2mの円形土塗で深さ40cm。SK-01と同様の出土遺物で量は少ない。どの遺構も一気に埋められたらしく層序はない。

SD-01の西側にはSK-03、05、06、07の土塗とSD-03の溝一本を検出した。SK-03は1.35m×0.8mの方形土塗で深さは0.5m、内部は3層に分層できた。1層は、明黄灰褐色土で遺物はなく、2層は明淡灰褐色土で遺物は、瓦片コンテナ2箱、石臼1点、陶器片数点、加工された疊岩1点である。3層は淡黒灰色粘質土で遺物は、2層よりやや下る時期のくらわんか椀1点、土師皿1点、陶器片数点が出土した。

またSK-05、06、07とSD-03から遺物は検出されなかった。SD-01からも遺物は検出されず、分層もできない。

トレンチの中央部から東西へ地山が傾斜しており、南へゆるやかに傾斜している。

第2トレンチ

第2トレンチは、第1トレンチ北側の丘陵のピークから南東方向へ幅1.5m、長さ10mで設定した。T.P180.10mを計る。トレンチ北東面の層序は、腐植土(1層)、約20cmの暗褐色砂質土(2層)、

10cmの淡黄褐色砂質土(3層)、明黄褐色砂質土(4層)、また、トレンチ最上部では、表土をはいだ時点で黄褐色土(5層)となり地山へ至る。遺構、遺物は検出されず、自然地形を放置していることを確認した。

第3トレンチ

第3トレンチは第2トレンチの東で尾根の平場に北西から南東方向へ幅2m、長さ20mで設定した。すぐ西側に池があり、平場のへりにあぜが見られることから、最近まで水田として使用されていたことがわかる。T.P. 178.33mを計る。トレンチ北面の層序は、表土(1層)、耕土(2層)、赤褐色粘質土(3層)、灰褐色砂層(4層)とつづき地山へ至る。地山はトレンチ中央から南北へ傾斜している。遺構、遺物は検出できなかった。

第4トレンチ

第4トレンチは、池をはさみ東側の尾根上の平場に幅1.5m、長さ18mで設定した。T.P. 178.82mを計る。平場のへりのおさえ方から水田として使用されていたことがわかる。トレンチ北面の層序は、20cmの淡黒褐色土(1層・耕土)、10cmの赤褐色・灰褐色粘土(2層)、50cmの淡灰色粘土(3層)、淡青灰色粘土と続いている。遺構、遺物は検出されなかった。

第5トレンチ

第5トレンチは、上下2つの平場とその斜面を南北へ貫く形で幅1.5m、長さ15mで設定した。T.P.は上段182.40m、下段180.20mを計る。上下段とも表面観察で畠のうねが見られた。上段の層序は、黒褐色土(1層)、淡灰白色土(2層)、淡青灰色砂(3層)、明青灰色粘土(4層)とつづき、4層下で地山となる。斜面には黄褐色土(5層)が入り、下段の層序は、黒褐色土(6層・耕土)、淡灰白色砂質土(7層)、赤褐色砂(8層)で地山となる。遺構、遺物は検出されなかった。

第6トレンチ

第6トレンチは、調査区内で最も高い丘陵のピークから西斜面へ東西方向に幅1.5m、長さ8mで設定した。T.P. 186.80mを計る。トレンチ南壁の層序は、10cmの黒褐色土(1層)の下に頂上部(東側)に淡灰褐色土(2層)があり、斜面に沿って途中で消え、淡黄灰色砂(5層)へとつづき地山へ至る。このトレンチは第2トレンチと同様に丘陵頂部を自然地形のまま放置している。遺構、遺物は検出できなかった。

第7トレンチ

第7トレンチは、城館が存在する場合、空堀ではないかと考えられていた地点で第6トレンチから西下方の斜面にあたる。T.P. 181.20mを計る。トレンチは堀の堤を東西に貫く形で幅1.5m、長さ6mで設定した。北壁の層序は、腐触土(1層)をはいだところで乳青灰色粘質土(2層・盛土)、淡橙褐色砂質土(3層・盛土)、淡青褐色砂質土(4層・盛土)、茶褐色土(5層)へとつづき、暗青灰色粘土(6層)へ至る。堤の基底部は6層が成している。これらの点から、このトレンチは、溜め

池として構築されたことがわかった。遺物は検出できなかった。

第8トレント

第8トレントは、第1トレント東の平場に東西方向へ幅1m、長さ10mで設定した。T.P.171.00mを計る。トレント南壁の層序は、10cmの腐植土(1層)の下に、40cmの淡黒褐色土(2層・耕上)があり、白褐色砂(3層)で地山となる。遺構、遺物は検出されなかった。

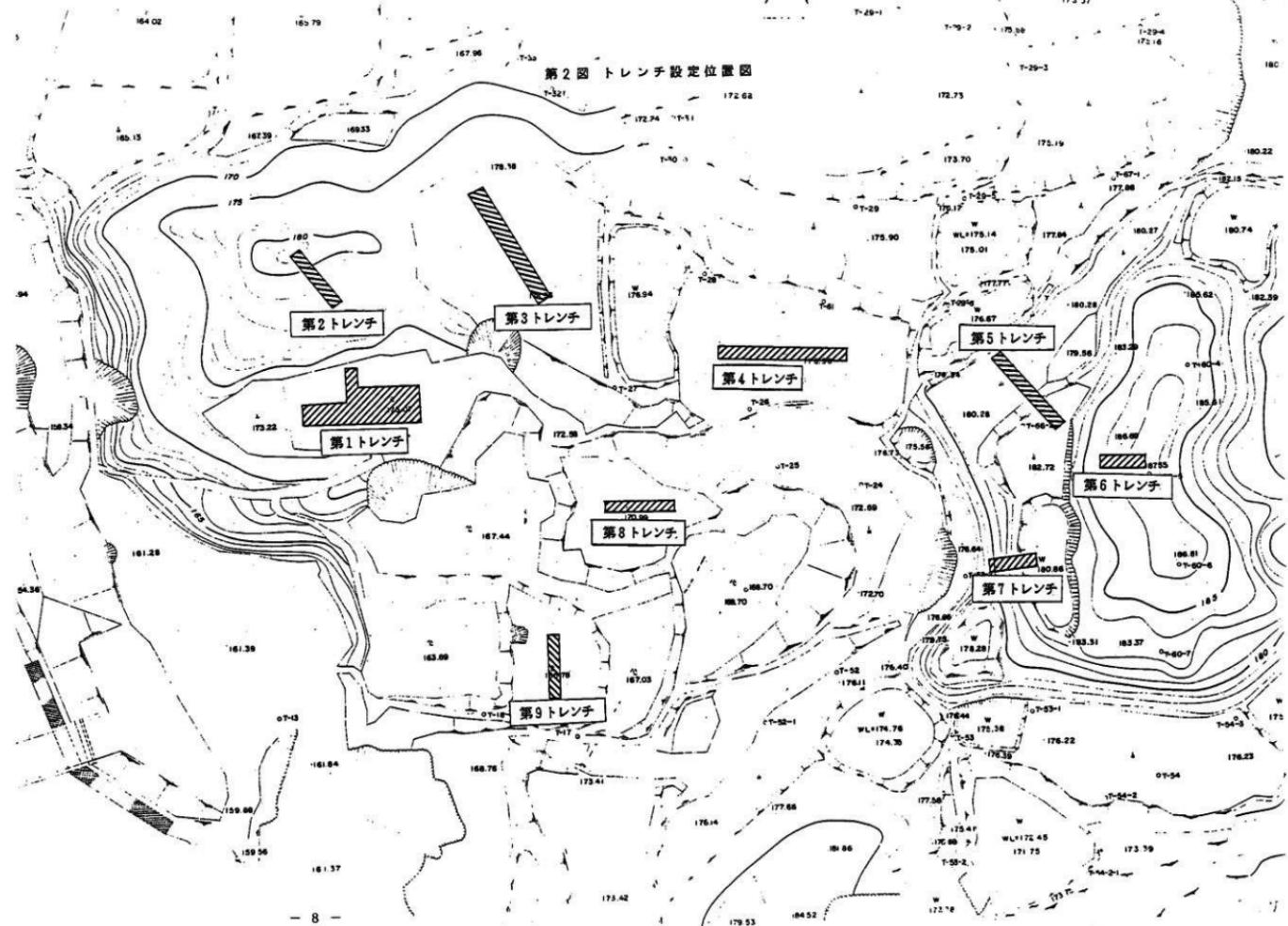
第9トレント

第9トレントは、第8トレント南側のさらに下段の平場に、南北方向へ幅1m、長さ10mで設定した。T.P.165.50mを計る。トレント西壁の層序は、20cmの淡黒灰色土(1層・耕土)、淡青灰色砂質土(2層)、赤褐色砂質土(3層)、明黄褐色土(4層・床土)へつづき、トレント南を掘り下げたところ、淡黄褐色土(5層)、黃褐色土(6層)は北へ傾斜して堆積しており、暗赤褐色砂(7層)で地山となる。7層も北へ傾斜している。遺物は検出できなかった。

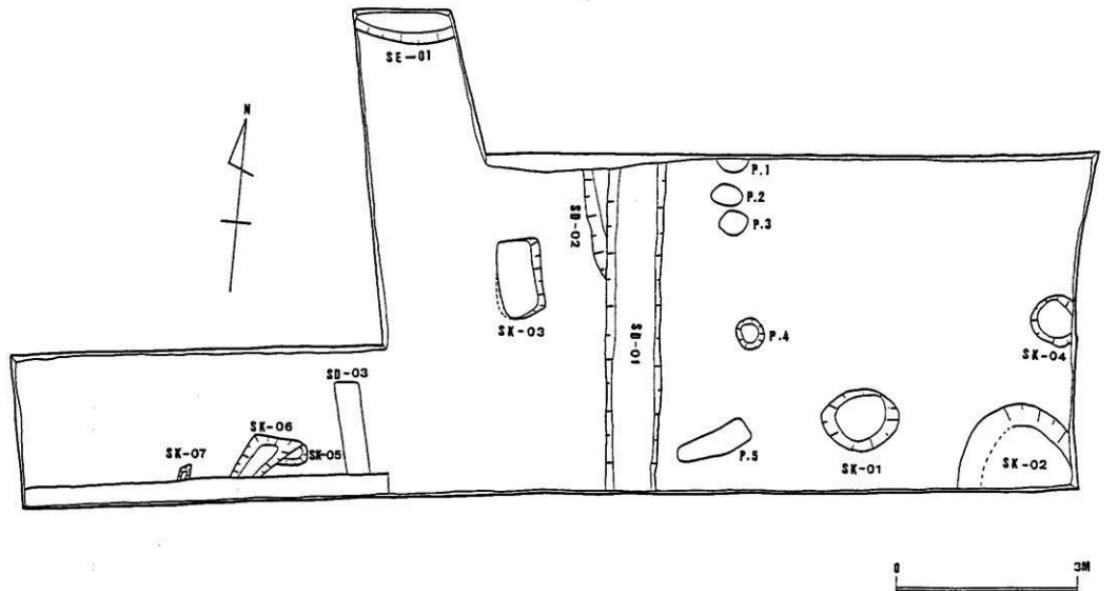
Ⅲ まとめ

今回の調査で発見された遺構は、土塹7基、溝3本のみで、中世城館の存在、庵円寺の遺構を確認するに至っていない。城館の存在を示すようなものは何ひとつない。庵円寺跡については、明治21年8月に廃されたという伝承から、明治時代の廃仏毀釈運動で取り壊された時に、徹底的に地下の遺構まで破壊し整地され、その上で耕地化されたのではないかと思われる。

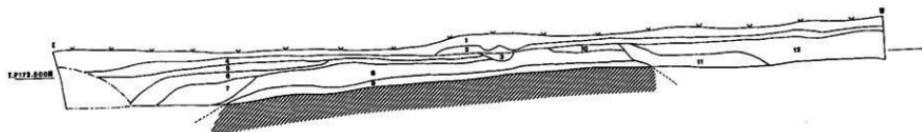




第3図 第1トレンチ平面図



第4図 各トレンチ断面実測図



第1トレンチ

1. 暗黒褐色土層
2. 赤灰褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土
4. 暗灰褐色土層
5. 暗灰色砂質土(礫まじり)
6. 暗赤灰色粘質土
7. 暗灰色砂質土(礫まじり)
8. 淡赤灰褐色砂層(“”)
9. 赤褐色砂層
10. 赤褐色粘質土
11. 赤褐色粘土(淡青色粘土まじり)
12. 赤褐色粘土



第2トレンチ

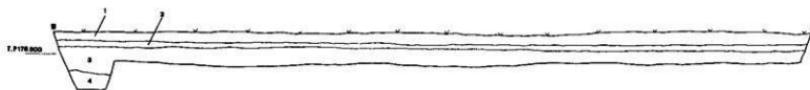
1. 黒褐色土層
2. 暗黄褐色砂質土層
3. 淡黄褐色土層
4. 明黄褐色砂質土層
5. 黄褐色土層



第3トレンチ

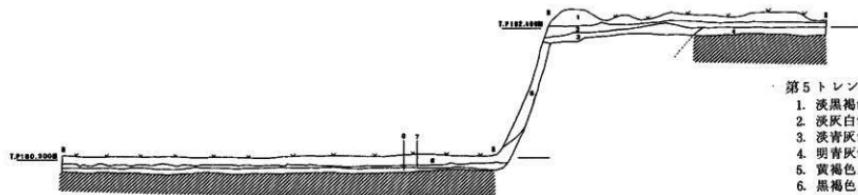
1. 淡黒褐色土層
2. 淡黒褐色土層
3. 赤褐色粘質土層
4. 灰白色砂層
5. 淡青褐色粘質土層
6. 淡白褐色砂層(灰白色砂まじり)
7. 淡青色粘質土層
8. 赤黄色砂層
9. 淡黄褐色砂質土
10. 淡青灰色砂層
11. 淡青灰色粘土層
12. 淡青灰色粘土層
13. 青灰色砂層

第5図 各トレンチ断面実測図



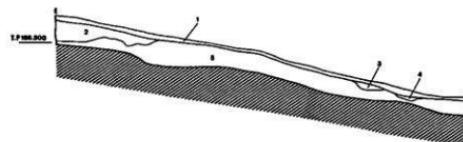
第4トレンチ

1. 淡黒褐色土層
2. 赤褐色・灰褐色粘質土層
3. 淡灰色粘土層
4. 淡灰青色粘土層



第5トレンチ

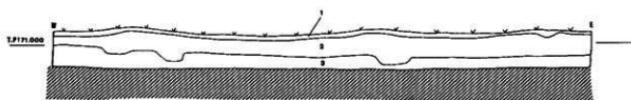
1. 淡黒褐色土層
2. 淡灰白色土層（赤褐色土まじり）
3. 淡青灰色砂層
4. 明青灰色粘土層
5. 黄褐色土層
6. 黑褐色土層
7. 淡灰白色砂質土層
8. 赤褐色砂層

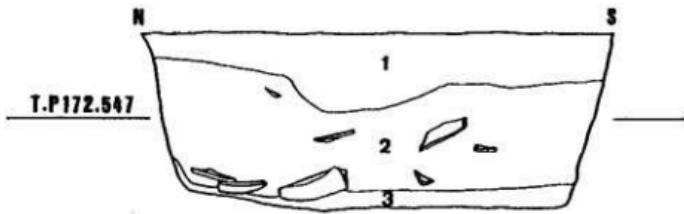


第6トレンチ

1. 暗黒褐色土層
2. 淡灰褐色砂層
3. 茶褐色砂層
4. 暗茶褐色砂層
5. 淡黄灰色砂層

第6図 各トレンチ断面実測図





第1トレンチ SK-03内層序
1. 明黄褐色土
2. 淡灰褐色土
3. 淡黒褐色土

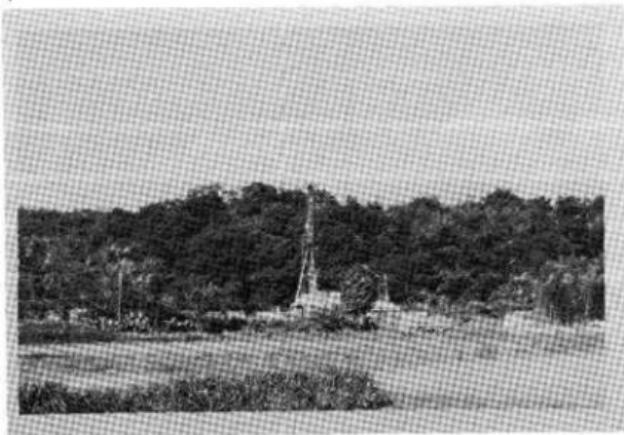


写真1. 調査区遠景

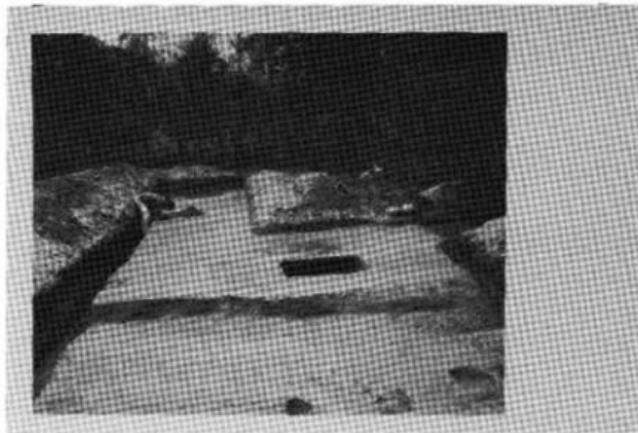


写真2. 第1トレンチ(東から)



写真3. 第1トレンチ(西から)

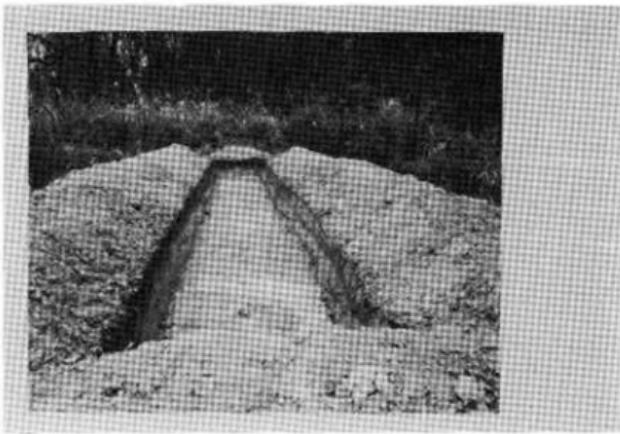


写真4. 第2トレンチ



写真5. 第3トレンチ(北西から)

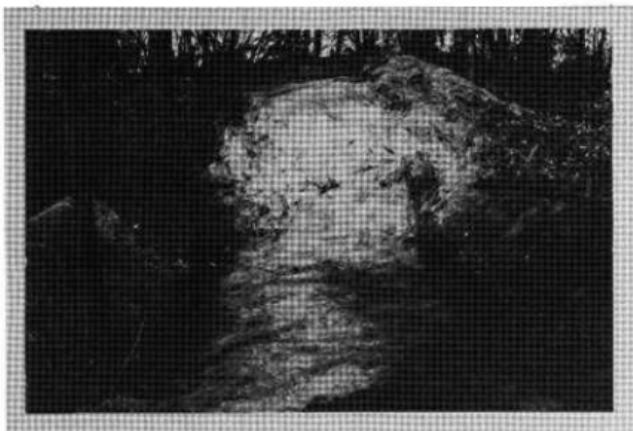


写真6. 第4トレンチ(西から)

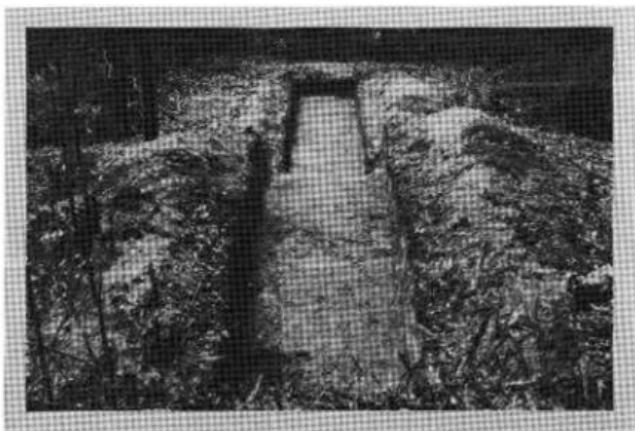


写真7. 第5トレーニチ(南から)

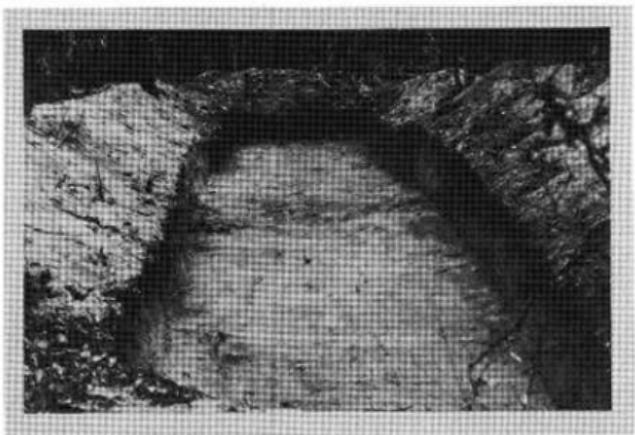


写真8. 第6トレーニチ(西から)



写真9. 第7トレンチ

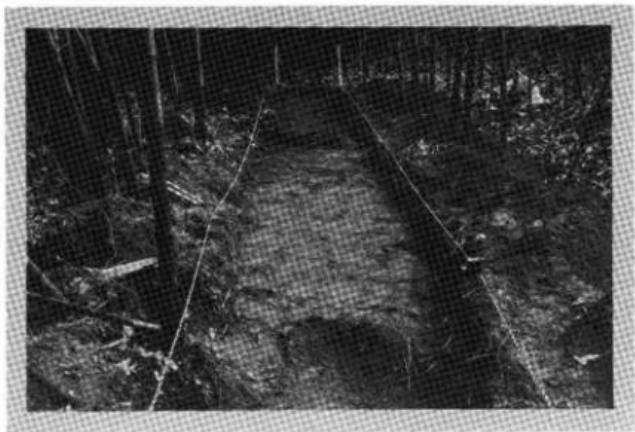


写真10. 第8トレンチ



写真11. 第9トレンチ

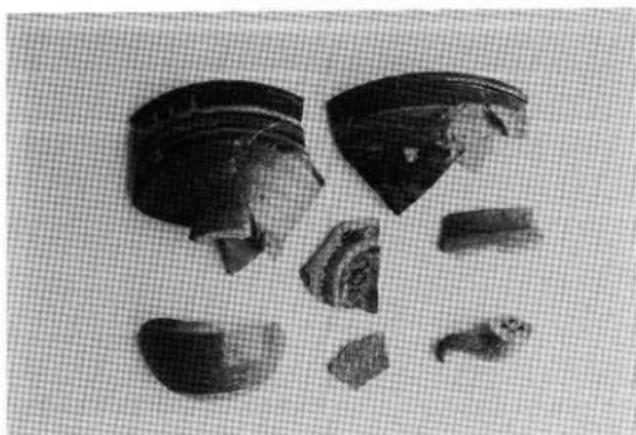


写真12. 出土遺物・陶器 I

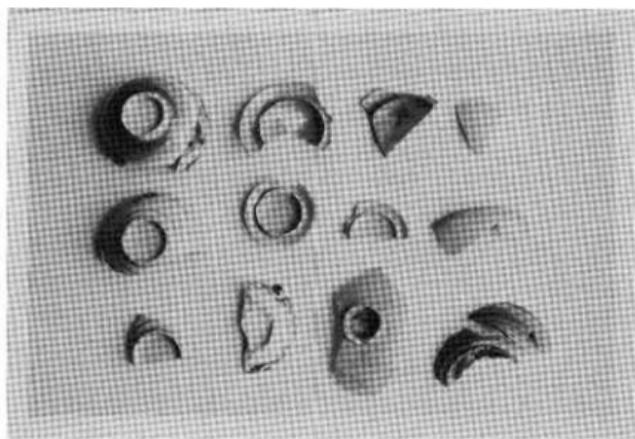


写真13. 出土遺物・陶器 II



写真14. 出土遺物・瓦 I

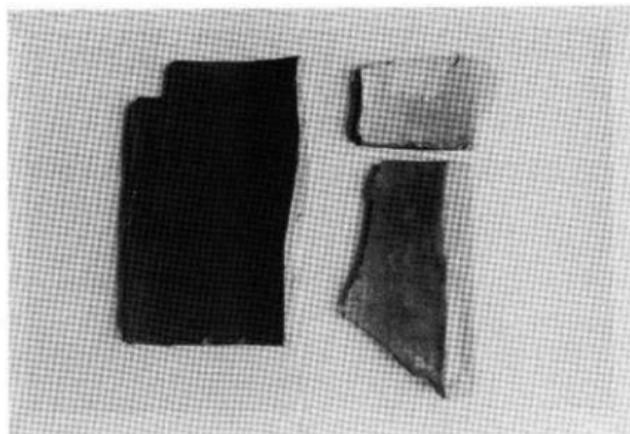


写真15. 出土遺物・瓦 II

生駒市埋蔵文化財調査報告書
昭和 60 年度

昭和 61 年 3 月 25 日 印刷

昭和 61 年 3 月 31 日 発行

編集 生駒市教育委員会
発行 (生駒市東新町 8 番 38 号)

印刷 モトガミ印榮堂
(大阪市大淀区豊崎 3 丁目 15 番 9 号)

